

2023年度 事業報告書
2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド・相談ネットワーク

1 事業実施の方針

2023年度は既存事業のほか、「親亡き後を生きるひきこもり当事者の老後を支え合う事業」など助成金を活用して事業を行い、前年度に引き続き札幌市から委託を受け「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:よりどころ」を中心に実施し「ひきこもり8050問題対応型地域支援拠点設置研究事業」では前年度に引き続き札幌近郊の居場所活動のさらなる充実につなげた。これまでの活動の功績を認められてもらう形で地方新聞47社とNHK、共同通信社で構成し選定する「第14回地域再生大賞」の「優秀賞」を受賞し、さらにNPO活動に活力を得る1年となった。

2 事業の実施に関する事項
特定非営利に係る事業

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
外出困難なひきこもり者と家族への相談支援活動事業	ひきこもり当事者や家族からの電話、電子メール、手紙、出張・来談による相談に対応し、必要に応じて他団体機関につなぐなどひきこもり当事者や家族が社会的に孤立しないよう実践活動に努めた。2023年度は手紙相談延べ4件(継続相談1件)、電子メールによる相談件数は問い合わせを含め延べ581件、電話による相談件数延べ82件。来談による面接相談は4件、支援者相談1件であった。	通年(年末年始を除く)	事務局	4人	相談総数延べ672人	17
ひきこもり者の家庭へのアウトリーチ支援(訪問支援)事業	2023年度は前年度に引き続き、当事者や家族を対象にして彼らの孤立感を和らげ、他者とゆるくつながり、安心感を届ける目的で手紙によるピアアウトリーチを展開し、ネット環境がなく居場所に来れない当事者等14名に対し月1〜2回の頻度でピアスタッフが作成したオリジナル絵葉書を郵送した。絵葉書は電子メールにはない温かみのある手書きメッセージと言語では伝えきれないイラストや写真を併せ持つことで疲れた心を癒す効果に寄与した。手紙によるピアアウトリーチは返信を求めないことが原則だが、年賀状の返信など当事者や家族からお礼が寄せられた。また、当NPOでピアスタッフを務めている尾澤基氏が前年度から札幌市近郊在住の当事者に対して実施してきた訪問支援は本人からの申し出により10月で終了した。	通年・概ね毎月1回程度	事務局	3人	当事者(家族)14名	34
人間関係づくりを学習する当事者会	概ね35歳を基点にしたひきこもり当事者の集まり「SANGOの会」を初心者例会と通常例会に分けて開催し、ひきこもり当事者が社会的に孤立せず、仲間とつながり自由に交流を深めた。通常例会ではとくにプログラムを設けず参加者が話したいことを中心にフリートークとし参加者同士で会話を楽しむことを中心に行った。初心者例会のみネット会議システムZOOMによるオンライン例会で夜間開催した。2020年度以降開催できなかった地域めぐり登山などの例会外企画は今年度も中止した。2021年度から23年度まで新型コロナウイルス感染拡大予防のため断続的に会場の使用が制限されたが、2023年度から通年で使用可能となったこともあり、通常例会の参加者は前年度より増加した。	通常例会・初心者例会毎月1回実施 (2023年度オンライン初心者例会) 4月28日・5人/5月26日・7人 6月30日・6人/7月28日・6人 8月25日・5人/9月29日・4人 10月27日・5人/11月24日・4人 12月29日・5人/1月26日・6人 2月23日・3人/3月29日・5人 (2023年度通常例会) 4月1日・4人/5月7日・4人 6月3日・2人/7月1日・5人 8月5日・5人/9月2日・5人 10月7日・4人/11月18日・2人 12月2日・3人/1月6日・5人 2月3日・4人/3月2日・7人	ボランティア活動センター研修室	3人	当事者20人(家族) 2023年度実績/通常例会参加者延べ50人・オンライン初心者例会61人	16

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ひきこもり者とその家族等に役立つ広報出版事業/令和5年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほっと基金)	会報「ひきこもり」通信を発行(A4判全8頁6回発行/電子版・紙媒体各100部印刷製本)し、当NPOのHPに公開するとともにネット環境のない世帯や支援団体機関には紙媒体として郵送配布した。表紙のイラストは、昨年度に引き続き、賛助会員でひきこもり経験者の小松英行氏が担当した。2023年度は令和5年度さぼーとほっと基金「親亡き後を生きるひきこもり当事者の老後を支え合う事業」(別項参照)と連動させて広報出版事業を展開したため同事業で実施した講演会とシンポジウム「ひ老連協の可能性について」で話された内容を前編後編の2回に分け掲載したほか特集「親亡き後を生きるひきこもり当事者」を4回連載し、ひきこもり当事者や経験者が直面する課題について触れた。	隔月1回6回	事務局など	3人	北海道・札幌市内に住む当事者、家族、支援者、一般 100人	96
ひきこもり8050問題対応型地域支援拠点設置研究事業/2023年度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金事業	本事業では、「ひきこもり8050問題」に対応するため、これまで長年にわたり当法人で実践してきた札幌圏域における支援拠点をフェールドワークに置きながら、そこに集まった中高年層のひきこもり当事者やその家族の事例をもとに、今後求められるひきこもり支援政策を検証、解明していくことを目的に事業をすすめた。 支援拠点は、前年度から引き続き5年目になる江別市(E市)と、新規開拠地として北広島市(K市)を選定し実施した。E市は2019年度から継続実施され、1共催8後援団体機関の協力のもと開催。参加人数は9回合計で183名。K市は1共催5後援団体機関の協力のもと開催。参加人数は3回合計で22名。ただし、当事者と家族の参加者は全日程で0人であり、支援者、行政職員、ピアスタッフなどの参加者の人数である。 本研究事業評価アンケート結果(E市のみ実施)では、「とてもよかった」「よかった」という回答率を合わせると97%と全体の9割以上を占める高評価を得た。 E市における現地支援団体との万全な協力体制による対応と、非協力的なK市との対応により大きな差が生じた半面、前年度まで支援事業を実施してきた小樽市(O市)と苫小牧市(T市)は当法人主催からは外れたが、O市では2023年10月から地元地域活動支援センターが主催となりO市との連携で無料相談会と称する集まりを月1回の頻度でひきこもり当事者やその家族対象に開始し講師として当法人の役員等が協力し始めたこと(2024.1.15発行「北方journal」に掲載)、またT市では地元社会福祉協議会が主催で当NPOが主催で2018年度から実施してきた居場所「とまとま」をそのまま継承(2023.9.6付苫小牧民報社に掲載)して2023年9月から年度内隔月1回の頻度で計4回当法人も後援団体となってピアスタッフの派遣を行いフォローアップに貢献できた。 本研究事業のまとめは「ひきこもり8050問題対応型地域支援拠点設置研究事業報告書」(A4判全25頁モノクロ平綴じ印刷製本300部作成)として刊行し、北海道内の主なるひきこもり当事者団体や家族会、ひきこもり支援関係団体機関に郵送配布を行った。またこれと併行して当NPOの公式ホームページやSNS、会報「ひきこもり」通信などでも案内し必要とされる人たちの手元に幅広く届くよう心掛けた。 事業への反響として8月24日付北海道新聞朝刊道央版に居場所「シエスタ」の開催案内の告知が掲載され、12月15日、同紙に居場所「シエスタ」の様子が報道された。	2023年度 居場所きたひろ(木曜日) 9月21日,10月12日,11月16日 事前会議 7月18日 (オンライン会議) 居場所シエスタ 8月30日,9月15日,30日,10月15日,30日,11月10日,29日,12月12日,22日 事前会議 6月2日 中間会議11月2日 事後会議 2024年1月31日 (全てオンライン会議)	北広島市教育委員会芸術文化ホール 江別市総合社会福祉センター	6人	北海道内に住む当事者、家族、支援者など 延べ341人	568
親亡き後を生きるひきこもり当事者の老後を支え合う事業/令和5年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほっと基金)	両親が逝去し支えを失った当事者が、生命の危機に陥らないよう親亡き後を生きるひきこもり当事者の老後を支え合う事業を開関係団体の協力のもと実施した。 5月に「ひきこもりの老後を支え合う連絡協議会(略称:ひ老連協)」を10団体機関で組織化し、事業推進に必要な事項を協議し、8月27日札幌市内の公共施設で対話交流会(オープンダイアログ)「ひ老連協の可能性について」を開催した(参加者50人)。交流会は二部構成で、第一部は会場とオンライン併用のハイブリット形式で行い、当初登壇予定だった大田原守徳氏が病氣により逝去されたため50代のピアスタッフが代役となり大田原氏との思い出や病氣との向き合い方などについて話した。後半はピアスタッフ3名が親なき後の生き方について話した。第二部では登壇したピアスタッフと参加者によるグループセッションが行われ全体でシェアした。交流会の内容は会報「ひきこもり」で2回にわたり連載した。また交流会に関する新聞報道記事が5月18日、7月8日、9月3日に掲載された。また、情報誌北方ジャーナル(2023.10月号)ルボ「ひきこもり」97で開催内容が掲載された。	2023年8月27日	北海道立道民活動センター「かいてる2.7」940研修室	9人	ひきこもり当事者・家族・支援者など50人	117

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
札幌市ひきこもりに関する集団支援助点設置運営業務/居場所「よりどころ」	<p>前年度に引き続き札幌市から業務の委託を受け居場所「よりどころ」を実施した。居場所「よりどころ」は、札幌市内近郊に在住するひきこもり当事者とその家族を対象にして、「札幌市ひきこもり地域支援センター」との協同により「居場所機能」と「相談機能」「学習機能」を併せ持つ地域拠点として、当事者会並びに家族会を月4回開催(うち1回はZOOMを活用したオンライン当事者会、家族会として開催)。本業務にはひきこもり経験を有する1名の運営統括支援員と5名の経験者ピアスタッフに加え3名の家族ピアスタッフの計9名体制で取り組んだ。</p> <p>当事者会の参加人数は計48回で延べ213人。家族会の参加人数は計48回で延べ233人。前年度まで続いた新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったこともあり、前年度と比べ当事者会は3人、家族会は32人増加した。家族会で参加者0人が1回、当事者会は1回あったが全てオンラインでの開催回であった。</p> <p>オフラインでの当事者会では、ゲーム、雑談、フリー、初心者を行うグループ、お一人様で過ごす形で実施した。オンラインでは参加者が少数であったことから特にグループ分けは実施せず世間話から悩み事まで幅広く交流した。</p> <p>オフラインでの家族会では、当事者ピアスタッフが与えられたテーマ「ひきこもりの預貯金(お金にまつわる)について」「ひきこもりにとって親友は必要かについて」や「ひきこもりは働けないのかについて」などをテーマにした話題提供、ひきこもり地域支援センターPSWによるミニ学習講座を継続的に実施し、後半はグループワークを行った。</p> <p>オンラインでは、配置を家族ピアスタッフのみとしたことや参加者が少数であったことから特設テーマ等は設定せず自由に交流できるようにした。</p> <p>休日開催を7回行ったが、5月3日の祝日に開催した家族会1名の参加だったが、連休でどこも相談機関が休みで家にも行き詰まり参加に至った例もあり、少人数でも必要性が感じられた。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止策として場内マスク着用や手洗いは任意となったが、感染の予防のため野外での見学を主とした「よりどころ例会企画」は実施しなかった。</p>	<p>2023年度当事者会 毎月第1第3月曜日(4月,6月,7月,8月,9月,11月12月,1月,2月,3月は第2第4月曜日)第2水曜日(4月,6月,7月9月,12月,1月,2月,3月は第3水曜日,8月,11月は第1水曜日)13:30-15:30</p> <p>4月3日,12日,17日,5月1日,10日,15日,6月5日,14日,19日,7月3日,12日,17日,8月2日,7日,21日,9月4日,13日,18日,10月2日,11日,16日,11月1日,6月20日,12月4日,13日,18日,1月8日,17日,22日,2月5日,14日,19日,3月4日,13日,18日</p> <p>オンライン当事者会 毎月第4水曜日(8月,11月は第3水曜日,1月は第5水曜日)13:30-15:30</p> <p>4月26日,5月24日,6月28日,7月26日,8月16日,9月27日,10月25日,11月15日,12月27日,1月31日,2月28日,3月27日</p> <p>2023年度家族会 毎月第2第4月曜日(8月,11月,1月,2月,3月は第3第5月曜日)第1水曜日(5月,12月は第3水曜日,8月,11月,2月,3月は第2水曜日)13:30-15:30</p> <p>4月5日,10日,24日5月8日,17日,22日,6月7日,12日,26日,7月5日,10日,24日,8月9日,14日,28日,9月6日,11日,25日,10月4日,9日,23日,11月8日,13日,27日,12月4日,13日,18日,1月10日,15日,29日,2月7日,12日,26日,3月6日,11日,25日</p> <p>オンライン親の会 毎月第3水曜日(5月第1水曜日,8月,11月,12月,1月は第4水曜日)13:30-15:30</p> <p>4月19日,5月3日,6月21日,7月19日,8月23日,9月20日,10月18日,11月22日,12月27日,1月24日,2月21日,3月20日</p>	北海道立道民活動センター「かえる2.7」会議室、事務局、	9人	北海道内に住むひきこもり当事者、家族、など延べ446人	2,875
自信回復を狙いとした一般就労と福祉就労との間に位置する中間的労働(在宅ワーク)を構築する事業	<p>一般就労では不安感や負担が多く、福祉就労ではもの足りない制度の狭間に置かれたひきこもり当事者が、当事者会活動のつながりから社会参加できるような新しい働き方を模索検討していく。2023年度は前年度に引き続き、札幌市ボランティア活動センターが発送するDM便郵送物の袋詰め作業など軽作業を毎月2回実施した。</p>	印刷製本作業 センター通年・毎月2回	札幌市ボランティア活動センター研修室、社会福祉総合センター会議室	毎月3~4人	札幌圏の市民ボランティアなど870人	5
地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材(つながりワーカー)養成および実践活動/社会福祉法人中央共同募金会第2回地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材(つながりワーカー)養成および実践活動助成事業	<p>当事者並びに家族ピアスタッフ実働者を対象として研修を行い、当NPOが実施する居場所となる3つの拠点において相談活動や社会資源サービス情報を参加者と共有し具体的な支援につなぐ活動を展開した。また居場所に来れない又は一度参加したが途中で途絶えた当事者や家族には絵葉書をさりげなく送りつながりが切れないように見守り活動もった。そのことで居場所に再来したケースも見られた。またオンライン居場所を併用することで拠点である居場所周辺域や遠隔地の当事者が参加できるようになり、孤立せずに新たな気づきやつながりが深まった。</p>	2023年4月	zoomオンライン会議場及び各公共施設	7人	居場所参加者延べ267人	100
ひきこもりメタバース(仮想空間)居場所活用に向けた試行事業 令和5年度ボランティア活動支援事業/北海道地域活動振興協会	<p>ひきこもりメタバース活用居場所設置実行委員会を立ち上げ、ひきこもりに関心を示し社会貢献したいというソフトバンク㈱と北大大学院保健科学研究所、さらには札幌市行政やステップも加わり検討をした。ひきこもり領域へのメタバース活用はまだまだ始まったばかりで手探りの中での試行であったが、無料体験期間を経て賃貸契約を行った。今回は内部関係者に限定し計3回試行体験事業を実施し留意点など出した。試行体験に参加したNPO法人の就労支援員からは「楽しい」という率直な感想があった。また同じステップの相談員からは「ひきこもりが就労するということはものすごいハードルがある。私たちの支援ではやっとなってきた当事者には個室で軽作業をしてもらっている。なかなか足を向けられない人には良いツール」ではないかと述べた。メタバースという仮想空間内で様々な交流や体験ができるという、多様な可能性を今回の体験試行事業ではそれぞれが実感できたのではないかなと思われる。</p>	2023年9月1日~2024年3月1日	バーチャル・オフィス会議場ほか	3人	17人	20

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
<p>広く一般市民にひきこもり等を理解してもらうための講演会・イベント開催事業</p>	<p>ひきこもりの理解啓発のための研修会などに理事者が出席し、講演研修会講師やパネラーなどを担った(当NPOのピアスタッフとして登壇したものも含む。※オンラインによるリモート出演)</p> <p>田中敦理事長/6月16日、苫小牧ひきこもり家族会「まゆだまの会」の例会の講師。7月27日公益社団法人北海道社会福祉士会生活困窮者委員会主催「ちょっと聴きたい連続講座」に登壇。9月29日「令和5年度赤い羽根共同募金会講演会」で講師。9月22日深川市役所主催「令和5年度メンタルヘルズ講演会」で講師を担当。10月19日子ども家庭庁の相談業務上級研修で講師。10月28日札幌市立大学「母(親)と子のメンタルヘルズの課題に取り組む」シンポジストとして登壇した。11月11日旭川市社会福祉協議会主催「令和5年度重層的支援体制整備事業関係機関研修会」で講師を担当。11月15日社会福祉法人塩谷福祉会主催のひきこもり当事者・家族の「家族相談会」で講師を担当。12月16日KHJ北海道「はまなす」主催の「ひきこもり経験者が語る現在と未来、不安と希望」が行われ司会進行を担当。1月23日北海道主催「令和5年度生活困窮者自立支援制度人材養成研修」で講師を担当。2月28日富良野市社会福祉協議会主催第32回富良野市社会福祉大会で記念講演した。3月23日NPO法人クロユリの会主催「いきづらさ 親の支援と子の支援 寺小屋のつどい」で講師を担当。</p> <p>8月10日週刊新社会にエッセイ(1,800字程)が掲載された。2月24日付北海道新聞朝刊「ひきこもり最多1,392人 実態数十倍以上か 支援行き届かず」が報道され、田中理事長のコメントが掲載された。3月10日付北海道新聞朝刊「ひと2024」で田中理事長が紹介され、1月28日、地方新聞47社とNHK、共同通信社で構成し選定する「第14回地域再生大賞」の「優秀賞」を受賞し、2月15日授賞式典に出席。</p> <p>武田俊基理事/居場所「よりどころ」家族会(4月10日、6月7日、7月5日、10日、8月14日、9月11日、10月9日、11月8日、12月11日、1月10日、2月12日、3月6日開催)で話題提供し、当事者本人への対応などを家族へ向けて語った。</p> <p>吉川修司理事/情報誌「北方ジャーナル」8月号に連載中のルポ「ひきこもり」95でインタビュー内容が掲載。8月27日「ひきこもりの可能性について」でシンポジストの一人としてピアスタッフの大橋伸和氏、とり氏とともに登壇した。</p> <p>鈴木祐子監事/居場所「よりどころ」オンライン家族会で毎月1回司会進行を担当した。2月24日社会福祉法人塩谷福祉会で開催された「家族相談会」で講演した。</p> <p>当NPOのピアスタッフ/大橋氏は5月14日、全障研北海道支部札幌サークル主催のランチ会「ひきこもりのピアサポート～ひきこもり経験者が語るひきこもり支援のいま～」でピアスタッフの尾澤基氏とともに話題提供した。同じく両名は東京で開催されたひきこもりvoice stationフェスの「ひきこもり相談会」において、ひきこもりで悩む人々に対する相談をオンラインや電話で受けた。3月23日、社会福祉法人塩谷福祉会主催「家族相談会」で経験談を話した。2月10日、厚労省「ひきこもりvoice stationフェス」でvoice隊の一員として尾澤氏が経験談を話した。12月16日、全国ひきこもりKHJ家族会連合会北海道「はまなす」主催のミニ学習会「経験者が語るひきこもりの現在と未来・不安と希望」で当NPOのピアスタッフの5名が登壇しその思いを述べた。3月31日、臨床心理士会令和5年度第4回研修会で吉田氏が体験談発表を行った。</p> <p>また、大橋氏、とり氏、尾澤氏、吉田氏は前掲の「ひきこもり8050問題対応型地域支援拠点設置研究事業」並びに苫小牧市が独自に開催する地域拠点事業にローテーションを組んで参加し、ファシリテーターならびに話題提供を行った。</p>	<p>(2023年度) 4月10日 6月7日,16日 7月5日,10日,11日,27日 8月14日,27日 9月11日,22日,29日 10月9日,19日,28日 11月8日,11日,15日 12月11日,16日 1月10日,23日 2月5日,10日,12日,17日,24日,25日,28日 3月6日,23日,31日</p>	<p>札幌市内の公共施設のほか各会場、事務局</p>	<p>4人</p>	<p>北海道内外に住むひきこもり当事者と家族、支援者、一般市民 延べ500人</p>	<p>15</p>

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
他団体とのひきこもり支援ネットワークづくり事業	<p>ひきこもりについての意見交換を積極的に行ない、他団体機関との交流を深め、ひきこもりの理解啓発、解決へ向けての方針策定をすすめた。</p> <p>前年度に引き続き2016年度に発足した「北海道ひきこもり当事者連絡協議会」加盟した5つの当事者団体(旭川・NAGI、函館・樹陽のたより、帯広・リカバリスボット、札幌・すなはま、SANGOの会)との連携協力体制を維持した。</p> <p>前掲の「ひきこもり8050問題対応型地域支援拠点設置研究事業」では昨年度から引き続き地域拠点事業を実施してきた江別市と新たに開始された北広島市でプラットフォーム構築のため市役所、保健所、社会福祉協議会、地域若者サポートステーションなど多くの支援団体機関との連携と協力を得て事業を展開した。</p> <p>前掲の「親亡き後を生きるひきこもり当事者の老後を支え合う事業」で構築した「ひきこもりの老後を支え合う連絡協議会」には個人参加も含め道内10団体が加盟し、表記事業として開催した対話交流会「ひきこもりの可能性について」を通して課題解決に向けて活動を盛り上げることができた。また、対話交流会の講師として登壇予定だった大田原氏が病身にもかかわらず前向きに取り組む、その姿が新聞記事で取り上げられたことで「8050問題」に対する世間の関心度が高まったこともあり交流会に多くの参加者を迎えることができた。</p> <p>前掲の「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務」居場所「よりどころ」では札幌市ひきこもり地域支援センターから相談担当者が派遣され、当NPOのピアスタッフとともに協働しながら参加者と交流を深めた。「よりどころ」の周知に際しては札幌市のホームページ等に開催日程が掲載された。また前年度から引き続き「ひきこもりサポーター養成協議会」では、KHJ北海道「はまなす」とともに連携関係を続けた。</p> <p>昨年度から引き続き、厚生労働省主催の「ひきこもりvoice station」の各種イベントには当NPOのピアスタッフが協力参加して関係をつなぐことができた。また、11月12日、石狩市子ども若者協議会主催の「ひきこもりの理解について」では当法人から選出されたひきこもり経験者が池上正樹氏と対談し、理解啓発の促進に寄与してくれた。</p> <p>ICTを活用したメタバースによる居場所の可能性を試みる機会として、6月14日、ソフトバンク(株)の担当課長・高橋奈美氏と北海道大学院保健福祉学科学院の助教・岡田宏基氏が当NPOを訪れ意見交換をした。また、3月27日、2024年4月から当NPOと札幌市・ソフトバンク・北海道大学との産学官民による共同体制でメタバースによる居場所運用を開始することを決定した。</p> <p>5月31日、一般社団法人北海道ピアサポート協会との交流会では障がいをもつピアサポーターと当NPOのピアスタッフが意見交換を行い、分野の垣根を超えた交流ができた。</p> <p>前年度に引き続き、9月27日、北海道議会では当NPOの活動に関心を寄せる榎垣尚子氏が北海道議会代表質問に立ち、ひきこもり支援のあり方を取り上げ、12月6日には札幌市議会では好井七海氏が居場所「よりどころ」を取り上げてピアサポーターによる支援の拡充について言及した。そのほか田中理事長は6月26日には札幌市の副市長を含む管理職を交えた「8050問題についての懇談会」に出席し、その課題について話し合った。</p> <p>2018年より田中理事長が理事を務めてきたひきこもりの当事者団体の全国組織NPO法人Nodeが2023年10月で解散したが、引き続きNodeに加盟するひきこもり当事者団体と緩やかにつながり情報交換を行った。また田中理事長は、2023年4月1日付でNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会理事に就任し、11月4日-5日の両日、千葉市で開催された「第17回 KHJ全国大会in千葉」に参加。12月3日、東京で開催されたKHJ主催「家族が一步を踏み出すために必要な支援とは何か」第2部でシンポジストとして登壇した。3月21日、KHJ主催「ピアサポ交流会」(オンライン開催)には当NPOのピアスタッフも参加し、北海道のみならず、全国で活動する支援者との有効な連携ができた。</p>	2023年4月～2024年3月	北海道立道民活動センター「かいてる2.7」ほか各会場	5人	当事者、家族、実践者、学生、一般市民など延べ100人	17